

中郡遺跡群（出水市野田町）

—南九州西回り自動車道建設（出水阿久根道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

本遺跡は『野田町郷土史』で島津家発祥の有力地の一つとされる「屋地屋形跡」に想定されています。それを裏付けるように、中世（12～16世紀）の調査で、多くの輸入陶磁器や「龍首水注」など貴重な遺物が出土しています。さらに、堀跡、屋敷墓、掘立柱建物跡や竪穴建物等の建物の跡、造成の痕跡など、この地に有力者の居館があったことをうかがわせる遺構が発見されました。遺跡一帯は八代海に面する沖積地に所在し、木牟礼城跡や熊野神社、感応禅寺（島津家初代忠久から五代貞久を祀る、栄西創建の禅寺）を有することから、中世における要所であったと考えられます。残念ながら今回の発掘調査では、島津氏との関係を直接示す証拠は見つかりませんでした。



正面 右側面

※中郡遺跡群で出土した景德鎮産の青白磁「龍首水注」の注口部分。神奈川県鎌倉市二ノ鳥居遺跡出土品と類似している。

堀之内遺跡（薩摩川内市青山町）

—南九州西回り自動車道建設（川内隈之城道路）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

旧石器時代から近世にかけて複数時期の遺構、遺物が発見されました。なかでも旧石器時代の石器製作跡が特徴的で、樋脇町の上半鼻産の黒曜石を使っています。石器製作の過程でできる剥片、碎片等の破片は出土するものの、作製されたはずの完成した道具類はほとんど見つかりませんでした。このことは、完成品は他の場所へ持ち出した可能性を示しています。また、長崎県針尾産の黒曜石で作られた、主に西北九州で出土する「福井型細石核」と、地元の石材を用いて真似て作ったものが出土しました。約1万5千万年前の北薩地域の人々と、西北九州の人々が石材、石器製作技術を通してどのようにつながっていたのか、考えさせられる遺跡です。



※堀之内遺跡で出土した石器接合資料（剥片、碎片、石核をつけたもの）。隙間部分に完成品があったと考えられる。

普及・啓発活動

- ① 5月3～5日に上野原縄文の森で行われた「縄文の森春まつり」では、上野原縄文の森と協力し、体験活動の支援や26年度事業の紹介と発掘成果の展示を行いました。
- ② 9月14日（日）・15日（月）に鹿児島市宝山ホールにて「財団フェア」が開催されます。埋蔵文化財調査センターからは発掘成果を展示します。
- ③ 10月に中国・四国・九州ブロックに属する財団法人の埋蔵文化財調査機関が鹿児島に集まり、情報交換会議を行うことにしています。
- ④ 発掘調査の様子は随時公開しています。埋蔵文化財調査センターまでお問い合わせください。



（公財）埋蔵文化財調査センターのホームページは、
 上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) または、
 鹿児島県文化振興財団 (<http://www.houzanhall.com/zaidan/>) 「上野原縄文の森」
 からお入りください。

～かごしまの遺跡～ 第4号

発行日 平成26年7月25日
 編集・発行 (公財)埋蔵文化財調査センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市
 国分上野原縄文の森2番1号
 TEL 0995-70-0574・FAX 0995-70-0575
 URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
 E-mail: maibunchosa@tuc.bbiq.jp



～かごしまの遺跡～

第4号 平成26年7月25日

平成26年度発掘調査速報

「縄文時代の約5,000年前の土器が多量に出土!!～京の塚遺跡～」



京の塚遺跡は、曾於郡大崎町西持留にあり、大隅半島北部を流れる肝属川の支流、串良川の左岸の標高約90～98mの台地上に立地しています。

平成25年度からはじめた記録保存調査では、縄文時代前期末～中期初め頃（約5,000年前）の土坑や同時期の土器が10個体以上、つぶれた状態で発見されました。この出土する土器の大半は、深浦式土器と呼ばれるもので、大隅半島で多量に見つかった例はなく、当該期の研究に新たな資料を追加することになると期待されています。また、打製石鏃や石匙等の石器をはじめ、これらの石器を製作した際のものと考えられる原石、石核、剥片、碎片なども数多く出土しています。今年度でどのような新発見があるか、大変楽しみです。遺跡の一つとなっています。

道路整備事業と発掘調査

東九州自動車道建設事業における埋蔵文化財の取扱い

東九州自動車道は、北九州市を起点に大分県、宮崎県を経て、鹿児島県に至る全長 436 キロメートルの高速自動車道です。本路線の整備により、九州における循環型高速交通ネットワークが形成され、交通混雑の緩和、輸送時間の短縮など沿線諸都市の生活向上・活性化に資するとともに、産業・経済・文化の振興において九州一体となった発展に大きく寄与することが期待されます。

工事施工にあたっては、あらかじめその事業箇所における埋蔵文化財包蔵地の有無について、関係の県教育委員会に照会し、埋蔵文化財包蔵地があった場合は、事業促進と文化財保護との調整を図るため、その取り扱いについて協議することとなっています。その協議によって、現状保存が困難と判断された場合は、工事着手前に記録保存のための発掘調査を行っています。そのため、国土交通省大隅河川国道事務所では、本県発掘調査を、鹿児島県教育委員会に委託して実施しているのです。

埋蔵文化財調査センターによる記録保存調査

国民の共有財産である埋蔵文化財が、開発行為によって失われる可能性がある場合、開発事業との調整を行います。しかし、現状保存ができない場合は、発掘調査によって詳細な記録を作成して保存する「記録保存」調査を実施します。

埋蔵文化財調査センターでは、県から委託され、東九州自動車道建設など国事業に係る埋蔵文化財の記録保存調査を行っています。発掘調査後は整理、報告書作成業務を行い、調査成果を広く公開し、活用できるものにします。

一方で調査の結果、対象遺跡が地域住民にとって特に重要とみなされた場合には、遺跡が現状のまま保存されることもあります。サービスエリアに古墳群を移設した佐賀市金立町の丸山古墳群（長崎自動車道）、遺跡の下にトンネルを掘ることで保存を図った熊本県塚原古墳群（九州自動車道）のような例があります。



牧山遺跡と東九州自動車道建設

東九州自動車道関連遺跡

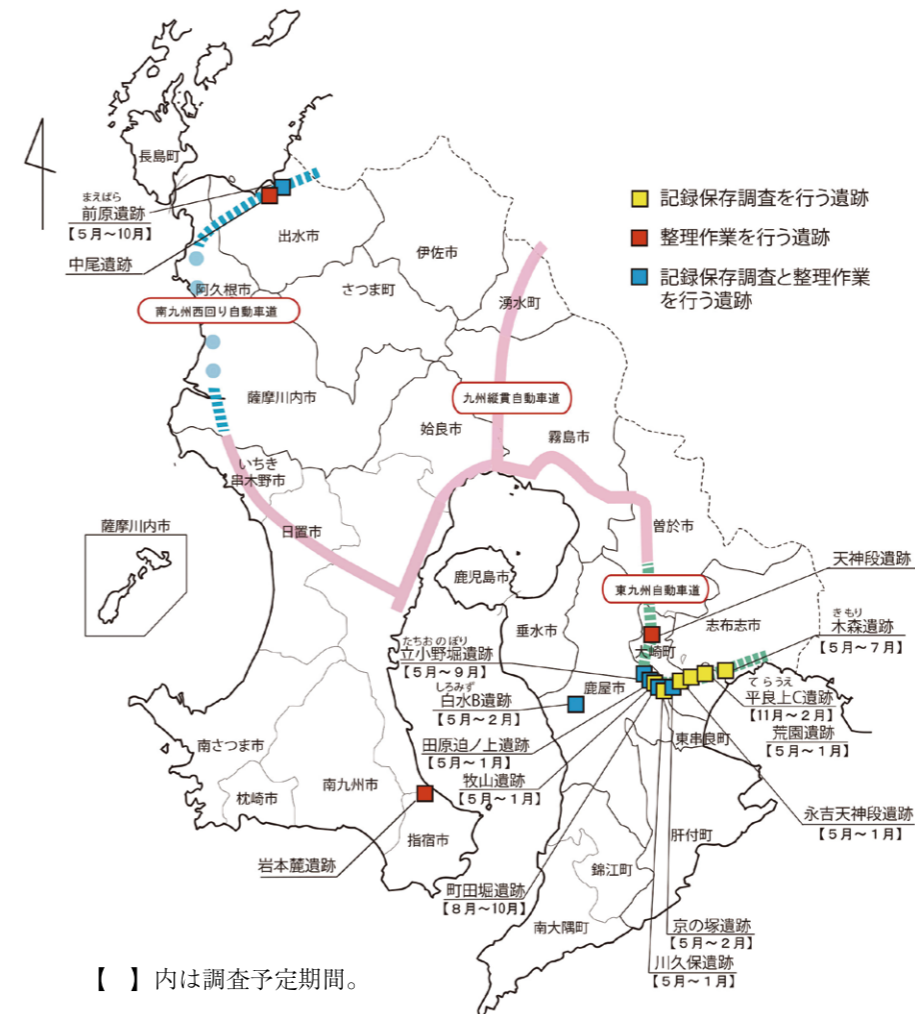
東九州自動車道末吉財部 I C にかかる国道 10 号線「みみとりばし」の橋の両端には 4 枚のプレートが設置されています。この一帯は約 46,000 m² に及ぶ広大な桐木耳取遺跡で、古代から旧石器時代まで多くの遺構、遺物が出土しました。プレートには発掘調査の成果を基に再現された、約 24,000 年前の人々の生活の様子が生き生きと描かれています。



みみとりばしのプレート

平成 26 年度発掘調査

埋蔵文化財調査センターでは国事業に係る埋蔵文化財調査を鹿児島県から受託して行っています。今年度は 15 遺跡の記録保存調査と 12 遺跡の整理作業を行います。



【 】内は調査予定期間。



記録保存調査

遺跡名	所在地	主な時代	調査起因事業
木森遺跡	志布志市	中世・縄文	東九州自動車道建設
平良上 C 遺跡	大崎町	縄文	東九州自動車道建設
荒園遺跡	大崎町	弥生・縄文	東九州自動車道建設
永吉天神段遺跡	大崎町	弥生・縄文・旧石器	東九州自動車道建設
川久保遺跡	鹿屋市	古墳・縄文・中世・古代	東九州自動車道建設
牧山遺跡	鹿屋市	弥生・縄文	東九州自動車道建設

整理作業

遺跡名	所在地	主な時代	調査起因事業
天神段遺跡	大崎町	旧石器~中世	東九州自動車道建設
岩本麓遺跡	指宿市	縄文	国道 226 号岩本交差点改良

記録保存調査と整理作業

遺跡名	所在地	主な時代	調査起因事業
京の塚遺跡	大崎町	縄文	東九州自動車道建設
町田堀遺跡	鹿屋市	古墳・縄文	東九州自動車道建設
田原迫ノ上遺跡	鹿屋市	弥生・縄文	東九州自動車道建設
立小野堀遺跡	鹿屋市	古墳	東九州自動車道建設
白水 B 遺跡ほか 3 遺跡	鹿屋市	縄文・旧石器	国道 220 号古江バイパス建設
前原・中尾遺跡	出水市	中世・縄文	南九州西回り自動車道建設